

産大レクチャー ア・ラ・カルト

〈191〉

世の中には「どこか数カ所しがあれば地域のみんなが恩恵を受けるけど、ソレがすぐ近所に来た皆さんだけは、ちょっとイヤな思いをするかも」という施設は多い。例えば町内のごみ出し場、あるいは住宅地の中の公園、はたまた墓地といったものもそうかも知れない。そのような施設は「どこかに欲しいね」と言っても誰も反対しないけれど、「いざ、どこに作りましょっ」となると誰かが「ウチの近所はイヤ」と言い始め、喧騒(けんそく)になることが多い。そしてそんな喧騒が生じるのをニンビヤ(NIMBY)という。ニンビヤは当事者が世間から「自己中では」という非難を受けることも多い、難しい問題だ。

そして2018年頃、私はニンビヤが「ゲーム理論」という「社会のこと」をいろいろ分析できる枠組み」を使って上手(うま)く描けること

状況が引き起させられる」喧騒であり、実はそれには三つのパターンしかない、という知見にたどり着いた。私はこの内容をニンビヤという「至る所

した。だがその後、実際に英語で論文を書いて学術誌に掲載されるまでは大変だった。①まず「論文を自分で英語で書」つま

て、こちらもそれに英文で返事しつつ論文も手直しする、という「お直し」のやり取りに突入する。ここで査読者2名がそれぞれ納得し、最終的に2人とも「お見事！」と言

ちなみに我が論文は「英文の学術誌という船」に乗って世界各地の大学図書館に一言に届き、程なく他の学者が書く論文の中で何度も「引用」され始めた。おかげで賞(大石泰彦賞)も頂いた。今この瞬間も私の論文を世界のどこかで誰かがき

どこかで誰かが

江口 潜

を見いだした。そして「ウチの近所はイヤ」の衝突であるニンビヤは、例えば当事者が「特に自己中人」だから起きている、といったことではなく「当事者が誰であれ

で起き、今もどこかで誰かが苦しんでいる問題」への理解と解決に資する「新たな価値ある知見」として「社会科学の一流の英文学術誌」に掲載され世に届き、残ると確信

りロング英作文の業者に頼んで「英語として完璧」にしてもらい③学術誌に投稿し、その後④匿名の査読者2名が「査読レポート」と称して英文で質問や意見を書いて来

なる。なので妥協もすれば反論もする。そしてこの④の時期を半年以上経て我が論文はようやく「掲載決定」になった。気が付けば白髪が随分増えていた。

そして私は研究者としてもう一勝負を見据えている。

(准教授)

|| 毎月1回掲載 ||

旧木造校舎 懐かし楽し

別侯きらら ノスタルジックツアー



ノスタルジックツアーで再現された給食の時間。銀盆に懐かしい献立が並んだ
11月30日、別侯きらら

廃校の木造校舎を活用し、9月30日、市内久米の別侯の別侯農村工房（池嶋武盛）でノスタルジックツアーが、きららで開かれた。同地区 代表が主催。市内外から

約20人が参加し、タイムスリップの楽しいひとときを過ごした。

旧別侯は市内唯一の木造校舎として、2005年3月、131年の学びの歴史の幕を閉じた。市から校舎を譲り受けた後、これまでにもさまざまな活動を繰り広げ、今回のツアーもその一環だ。2018・19年度に行われ、新型コロナウイルス感染症で中断していた。

朝の会から始まり、社会の授業では地域の歴史や、杜氏（とろじ）として冬場は出稼きに行ったことなどを紹介した。音楽では合唱を楽しみ、図工では竹トンボ作りを体験。途中、もみ殻を燃料にしたかまど炊飯を見学した。

お楽しみの給食は、昭和40年代のメニューで揚げパン、カレー汁、焼きビーフンのほか、出稼きの土産だった酒かすを使った郷土料理・サケ入りのしょうから煮など。銀盆、アルマイトの食器が当時を知る人に懐かしさを誘った。

同地区久米出身で、千葉県松戸市在住の厚嶋代さん（51）は「郷土や窓が小学生

の頃はまだ40年前を思い出す。木造校舎は絶対に残してほしい。月1回帰ってきているが、ふるさとを離れた立場だからそよ良さが分かる。これからも地区外に発信していきたい」と。

今年4月に地域おこし協力隊として同地区に着任した酒井俊介さん（46）は「木造校舎で学んだことは全く新鮮だ。酒かすは少し苦手だったが、地域の歴史を知り、おもしろいと感じられる。このツアーでいろいろ学び、協力隊の活動に生かしたい」と話した。

また閉校の1年前に養護教諭だったという柳の矢島潮子さん（72）は2回目の参加。「務めていたときの楽しかったことや、大変だったことなどが思い出される。今回参加しても楽しく、また次回も来たい」と笑顔を見せた。

校長先生の大役を務め、終了証書を渡したり、あいさつをしたりした実行委の一人、小林昌弘さん（65）は「4年ぶりの開催でプランがあったため、スタッフに戸惑いも生じたが、新潟大、産大生の協力のおかげで無事に終了できた。これを機会に地域を活性化させられたらいい」とホッとした表情。

社会科の先生、役だった池嶋代表（62）は「この地域も疲弊している中で、何らかの形で外部とつながりを求めていることを理解

してもらいたい。「銀盆」を通して、別侯のファンになっていただき、今後も関係性を続けていきたい」と期待を込めた。

音楽と自然 楽しんで！

夢の森で8日
野外イベント

市内榊井川の柏崎・夢の森公園を会場にした野外音楽イベントが8日午後1時から開かれる。出演は

地元ゆかりのアーティスト5組。

自然豊かな同公園で生の音楽に触れる機会をつくらうと、市民有志でつくる実行委員会が「柏崎夢の森公園音楽祭（Kind of green）」として初めて企画した。新潟産大OJで、シンガー・ソングラ

イターの松井まさみちさんが出演する。

会場は同公園内の里山工房。チケットは千円（当日1200円）。高校生以下は無料。飲食の持ち込みも自由。雨天時は屋内で実施する。チケットなどの問い合わせは実行委員長の春川さん（電話090・409

2・5473）へ。出演者と時間は次の通り。

午後1時〜11時 濱野▽1時半〜11時 アラカン▽2時10分〜11時 オカ・ピカケ▽2時40分〜11時 コースティックサウンド・鯛▽3時20分〜11時 松井まさみち

「紅葉祭」多彩に14・15日

産大ゼミ展示や綾子舞公演

新潟産大の学園祭「紅葉祭」（同大友会、学生実行委員会主催）が14・15日に学内で多彩に行われる。今年で35回目。「黎明（黎明）eimei」をスローガンに、ゼミナール展示・発表、模擬店のほか、軽音楽ライブ、書道や茶道体験会、カルタ大会（百人一首）など盛りだくさん。時間は両日とも午前10時～午後5時。お笑いライブは15日午後1時から体育館で。タイムマシン3号が出演する。入場無料だが、整理券を午前10時半から配布する。ニンテンドースイッチやロボット掃除機ルンバなど豪華賞品が当たるピクニック大会は3時半から。問い合わせは同学務課（電話24・6402）。

新潟産大の学園祭「紅葉祭」時。父母の会文化講演会は14日午後1時から221教室（350席）で、元日本代表ショートトラック・スピードスケート選手の勅使河原郁恵さんの「私のスケート人生」。3時から講堂でユネスコ無形文化遺産登録の国指定重要無形民俗文化財「綾子舞」公演。いずれも入場無料。

「新潟産茶大」 地域に学ぶ 地域を学ぶ ——実践活動レポート——

茶道を通じ つながる

くらサボえきまえ
訪問

新潟産業大学茶道部のメンバー一同で9月15日、柏崎駅前のからしのサポーターセンターにお邪魔して、お茶の体験会を開催させていただいた。「くらしのステップ」という月1回の催し物の一環である。この日は、普段、本学の和室で裏千家の茶道のお点前を教下さっている田中先生、

神田先生にも駆けつけていただいた。

参加された方々の前で、まずは小須田俊輔さん（3年）が堂々たるお点前を披露した。和気あいあいとした雰囲気の中、参加された方とおしゃべりしつつ、部員全員、お菓子とお茶でもてなしをした。その後、実際にお一人お一人お茶を点（た）てていただき、棚やお道具を鑑賞。最後には田中先生も説明されるなど、話が途切れない中、名残惜しく余韻を楽しみながら会を閉じた。

部活動の長い歴史を有する本学茶道部は、コロナ禍の最中、いったん休部状態となっていたが、2年前から現在の部員たちが集まり、少ないながらも部を盛り立ててくれている。水球やサッカーなど、スポーツでは全国的な活躍を見せる本学の部活動は、今年度より書道部や吹奏楽部、そしてわが茶道部など、文化活動においても積極的に地域との関わり合いの場を広げようとしている。

とは言え、あまり世間慣れしていない部員たちのこと、学外体験会のお話をいただいた時には正直「大丈夫かな？」とも思ったが、「案ずるより」と、普段のお茶会のような感覚で肩の力を抜いた、自然体な彼らの様子が印象的であった。参加者の方々に少しでも楽しんでいただけたらろうか。まずは「地域貢献」と肩肘を張らず、お一人お一人との触れ合

いとお互いの笑顔の積み重ねの中で、茶道部の活動が地道に地域に根付いていくことを願っている。
経済学部准教授・茶道部顧問・青木隆明
（同大学地域連携センタ



柏崎抄

▲「必ず救い出す」二日も早く釜筒を取り戻すと誓われたのほり旗。北朝鮮による拉致問題の早期解決

を求め、巡回ハネル展が市役所1階ロビーで開かれている。市と県、北朝鮮による拉致問題に関する新潟県市町村長の会の共催によるものだ▲展示は、家族の愛を受けて育ち、あどけない表情の横田めぐみさんが双子の弟の前で、バレエのポーズを取る姿や家族旅行などのスナップ。小学校の運動会や遊園地で遊ぶ様子もあった。夫と称する男性が公表しためぐみさんと並れる人物が写ったものも含まれた▲また同僚と笑顔で慰安旅行を楽しむ眞坂/ヨシさんの写真ハネルが並んだ。幸せな日々を送っていたが人は突然、拉致という行為で平穏を奪われた。残された家族は帰国の日を見ないで亡くなった。高齢化したりしている。一刻も早い救済が求められているにもかかわらず、遅々として進まない▲市民委員児童委員協議会の研修会が今年4月、北朝鮮による拉致被害者で新潟産大特任教授・蓮池薫さんが講師を務めた。「拉致で失ったもの、夢と絆」「歪ニメタ、北朝鮮が行った拉致の目的などを赤裸々に語った。その上で「日本が北朝鮮に独自のメッセージを打ち込む限り世の中は動かない」と強く呼び掛けた▲蓮池さんは拉致被害者家族の苛酷化などにふれ、「アメリカと北朝鮮の首脳会談を待っている余裕はない。日本が北朝鮮に独自のメッセージを送る姿勢を不すべきだ」と述べた。研修会での蓮池さんの言葉を思い起して、写真ハネルを思い出す心も心が痛む。日本政府のどこかを感じながらも、私たちができるものでしては何かを考えさせられる▲展示は31日まで。この問題を風化させないため、多くの人から足を運んでもらいたい。

田



水球「V奪還」「メダルを」 日本選手権 26日に開幕 ブルボンKZ壮行会

水球の日本選手権（26、28日、東京アクアティクスセンター）に出場するブルボンウォーターポロクラブ（ブルボンKZ）の男女チームを激励しようと23日、壮行会が専文会館で行われた。チームを支援する企業やサポーターら約170人が出席し、選手の活躍を願った。壮行会はサポーターズクラブが主催。冒頭、同クラブ会長の小出昭夫・柏崎信用金庫理事長が「日本選手権での活躍は五輪出場への近道になる。練習の成果を發揮し、水球のまち柏崎をさらに根強いものにしてほしい」とエールを送った。

2018年以降の優勝を目標とする男子は、杭州アジア大会でパリ五輪出場に貢献した日本代表の棚村克行、新田一景がメンバーに入る。昨年現役を引退したOBの志水祐介も今大会限りで復帰する。女子は東京五輪に出場した小出未来が攻撃の要。また男女ともにオーストラリア人選手が加入し、攻守で活躍が期待される。

水球日本選手権での活躍に期待を込めたブルボンKZの壮行会は23日、産文会館

れる。サポーターらを前に、男子の平田一成主将は「目標はずっと日本選手権優勝。一戦一戦を大事に、応援を力にして全力で戦う」と決意を表明。女子の梅村香穂主将は「この数年、目標のメダル獲得を果たせていない。チーム一丸で戦い、柏崎にいい結果を持ってきたい」と力を込めた。最後にチームのネーミング「グライツ（命名権）スポンサーであるブルボンの自由康社長の掛け声で「頑張ろー！オー！」と声をおわせて士気を高めた。ブルボンKZの初戦は男子が慶応大と、女子は東京女子体育大

と、女子は東京女子体育大

水 球 ブルボンKZ 男子3位 日本選手権 女子は初戦敗退

水球の第99回日本選手権が28日までの3日間、東京アクアティクスセンターで行われた。5年ぶりの王座奪還を狙ったブルボンウォーターボッククラブ柏崎（ブルボンKZ）男子は準決勝で日体大に敗れ、2連連続で決勝進出を逃した。3位決定戦では健志台クラブを破った。ブルボンKZ女子は1回戦で東京女子体育大に屈した。

ブルボンKZ男子は27日の準決勝で、序盤から日体大にリードを許し、前半を3-7で折り返した。第3ピリオド（P）には眞板悠貴選手らの連続得点で1点差まで詰め寄った。第4Pを終え14-14の同点となり、ペナルティースロー戦へもつれ込んだが、一歩及ばなかった。3位決定戦では相手に一度もリードを許さなかった。

一方、ブルボンKZ女子は26日の1回戦で東女体と対戦。東京五輪にも出場した小出未来選手が6点を挙げるなど健闘したが、第3P以降リードを広げられ

【男子】1回戦IIブルボンKZ22-19慶大▽準決勝II日体大19-17ブルボンKZ▽3位決定戦IIブルボンKZ13-9健志台クラブ
【女子】1回戦II東女体20-14ブルボンKZ

産大レクチャー

●●● ア・ラ・カルト

〈192〉

日本サッカー協会では、「リスペクト」の本質を常に全力を尽くしてプレーすること、そしてそれはフェアプレーの原点であるところをいいます。仲間、対戦相手、審判、指導者、用具、施設、保護者、大会関係者、サポーター、競技規則、サッカーというゲームの精神、それらサッカーを取

り巻くあらゆる関係の中でとらえていきたいと考え、「大切に思うこと」としています。

昨年のサッカーワールドカップカタール大会では、日本代表が試合の勝敗に関係なく、ロッカー

ルームをきれいに片づけ、感謝のメッセージを置いて会場を後にするといったことが、世界中から

大きく称賛されました。スコットランドリーグの試合では、日本代表の古橋選手が、途中交代する際に、ピッチサイドに落ちていたゴミを2、3個

はきれいだぞ称賛されていましたし、メジャーリーグの大谷選手がゴミを拾う姿が、アメリカで大きな話題になったこともありました。

リスペクト

拾うシーンが動画で投稿されると、「日本の文化の素晴らしさ」と称賛される声があがりました。WBCでも、日本のベンチ

このような事例はトッパスリットに限った話ではありません。私は大学サッカー部の監督という仕事柄、多くの高校生代の試合を見に行きま

す。先日、全国高校サッカー選手権大会の興予選を見に行った時のことです。3年生にとっては、負けたら引退という大事な大会です。延長戦に入

岡村 宜城

るほど白熱した試合の中で、負けているチームの選手が負傷しピッチの外に倒れこみました。そこに勝っているチームの選手数人が、かなりの距離

をタッシュし水の入ったボトルを持っていったシーンがありました。勝負ごとなので本来なら自チームの勝ちを最優先したいところ、相手チームを気遣い行動にうつせる勇気は素晴らしいと思えました。

このように私たち日本人は、他人を尊重し、礼儀正しきや思いやりを大切にすることを伝統的な文化や習慣、「リスペクト」の精神という他の国にはない特別な価値観をもって

います。私たちは、そうした伝統や文化を持っているという誇りを誇るべきです。今後もなくしてはならないものだと思います。最後に私自身スポーツに関わっている立場として今後も「リスペクト」の精神を受け継がれていけるように働きかけていきたいと思えます。

（助手）

|| 毎月1回掲載 ||

「新治療系」 地域に学ぶ 地域を学ぶ ——実践活動レポート——

リアルな看護師 姿を伝えたい

近年、学生自線で地域の魅力を発信する動画制作に取り組み機会が増えている。現在進行中のプロジェクトでは、柏崎総合医療センターからの依頼を受けて、看護師募集のための広報PR動画を制作している。昨年度はコロナ禍の影響もあり、オンラインで看護師の方々のヒアリングを行ってきたが、今年度の夏季休業中には、念願の病院

内での撮影を進めることができた。

この日の撮影モデルを務めた春川一樹さんは、救急看護認定看護師として、現在、救急外来を担当。災害派遣チーム(DMAT) 隊員として災害医療にも携わってきた。同院では看護のスペシャリストの育成も積極的に行っていることを知ってもらいたいとのこと。今回のキャストینگとなった。救急外来での処置の様子やインタビュ

き、緊張感のある撮影の合間にも時折のぞかせる優しい表情が印象的であった。他にも手術室、透析室で看護に従事する若手看護師2名の撮影も順調に進めることができた。

3日間の撮影にフル参加した飯島康貴さん(4年)は、撮影者のセンスが光る手持ちカメラを担当。「普段入ることができない部屋での撮影、苦労話やプライベートの話などを聞いたことは貴重な経験でした。画角や動きなどにもこだわって撮影したので、看護学生の方にドラマとは違うリアルな看護師の姿を分かりやすく伝えられる動画を完成させたい」と意気込

救急外来での撮影。患者役も看護師が務めた



みを語った。4年生は半年後には社会人としての新たな一歩を踏み出す。カメラ越しに見る看護師の皆さんの姿に自身が働く姿を思い浮かべ、身の引き締まる思いであっただろう。年

内の動画完成を目指し、急ピッチで追加撮影や編集作業を行ってきた。経済学部准教授・権田 恭子 (同大学地域連携センタ